

**SVA**

**ミャンマー（ビルマ）難民支援事業事務所**

**3 カ年事業計画**

**第4 フェーズ（2010-2012）**

**プロジェクト全体計画書 (2010-2012 年度)**

<p>1. 事業名</p> <p>    図書館事業</p>	
<p>2. 対象地域の教育状況</p> <p>    難民キャンプ内での制限された生活状況においては、食料や住まいに苦しむ難民の人々にとって、教育は贅沢なものとしてみなされている。しかし、教育は決して贅沢ではない。教育は基本的な権利であり、自分たちの故郷から避難してきた人々の希望や尊厳を回復させる上で必要不可欠なものであり、教育は、彼らが将来、自分たちの足で故郷へ帰り、より良い未来を築く助けとなる。</p> <p>    近年、難民キャンプ内では、教育開発は大いに必要とされている。しかしながら、教育セクターは校舎、教科書、良質の書籍、教材の不足に苦しんでいるのが事実である。これらの供給は十分ではなく、公教育が必要とされるなか、子どもの数の増加に伴い需要が増えている。キャンプ内での教育のレベルには限界がある。キャンプ内には基礎教育のみで、NGOが支援している職業訓練所も不足している。また、子どもたちがキャンプ内での基礎教育を終了した後にキャンプの外で進級する機会は不足している。</p> <p>    2009 年、カレン族のすべての難民キャンプで、教育に関する機構の改革が実施された。今までキャンプの基礎教育支援で中心的役割を果たしてきたオランダの NGO・ZOA により、今年 2009 年にカレン族のすべての難民キャンプで、教育に関するシステム・機構の改革が実施された。最終的に KRCEE (Karen Refugee Committee Education Entity) がすべてのキャンプの基礎教育を直轄することに同意し、KED (Karen Education Department) は IDP's area (Internally Displaced Persons) の教育に焦点をあてている。KRCEE の間で、SVA の図書館資源の重要性が増してくることはメリットがあると考えられる。SVA は KRC が中心にあるどのキャンプにおいても良い関係を築いてきた。特に、KRC の代表パスター・ロバートは私たちがどういう活動をしたいのかを理解してくれている。</p> <p>    CCSDPT (Committee for Coordination Service for Displaced Persons in Thailand)、および UNHCR は、5 ヶ年戦略計画 2009-2013 を描いており、教育セクターもまた、現在および将来の流れに応じて、より質の高いサービスを発展させることに焦点に当てている。ある統計では、タイのカリキュラムや教育水準に近づいてきている重要性を示した。</p>	
<p>3. 他の援助機関の動向</p> <p>    CCSDPT (Committee for Coordination of Services to Displaced Persons in Thailand) は 1975 年に設立された。近年、この CCSDPT に属する 20 ほどのメンバー及びその活動がミャンマー(ビルマ)の難民たちから注目されている。SVA は、このメンバーの一員であり、教育副委員会に参加している。難民キャンプで活動している団体は以下の通りである。</p>	
<p>ZOA (CCSDPT)</p>	<p>分野: 基礎教育、ノンフォーマル教育、職業訓練、農業、生活</p> <p>関係: 7 つのカレン族キャンプで公教育、ノンフォーマル教育の調整をカバーしている。近年、タイ財団を創設し始めた。そし、その事業を委譲し、直接的な活動実行を調整している。SVA は、事業の委譲のプロセスについて多くを学ぶことができる。</p>
<p>TOPS (CCSDPT)</p>	<p>分野: 幼児支援</p> <p>関係: Tak (メーソッドが基本) の 3 キャンプで活動。移動図書館活動は TOPS が支援して</p>

	いる託児所学校で歓迎されている。
WEAVE (CCSDPT)	分野: 幼児、女性、障害者支援 関係: 3 キャンプ (MLO, TH, BDY) で活動。移動図書館活動は WEAVE が支援している託児所学校で歓迎されている。
HI (CCSDPT)	分野: 地雷教育、リハビリサービス、社会開発 関係: SVA はそのキャンペーンイベントに協力した。HI は図書館に対して地雷教育で教材を支援している。
RTP (CCSDPT)	分野: スポーツ活動、子ども支援 関係: SVA は子どもの保護システムのキャンペーンに共に参加した。過去に SVA は青少年ボランティア研修に参加した。
COERR (CCSDPT)	分野: 農業、環境保護、子ども支援 関係: SVA は COERR が支援しているチャイルドフレンドリースペースに絵本を支援した。
MOE (Thai Ministry)	分野: タイ語基礎教育、タイでの高等教育の機会の提供 関係: SVA はすべての図書館で UNHCR のタイ書籍コレクションを通してタイの本を支援した。
KRCEE (Karen Org.)	分野: カレン族キャンプでの全教育業務 関係: KRCEE は 2009 年に新しく設立された団体で、SVA は密接に仕事をする必要がある。KED は IDP キャンプ内で教育について責任を持つようになると考えられる。
UNHCR (UN)	分野: 人権、難民福祉、IPs への調整・基金 関係: UNHCR and SVA は長年、パートナーシップを組んできた。UNHCR と NGO は月例会議や年次合宿会議の際に密接に仕事をしている。

#### 4. プロジェクトの必要性、妥当性

教育は難民の保護が中心となると認識されてきたが、難民キャンプ内では教育のレベルに限界があるため、難民たちは今もなお、教育を受ける権利の困難さに直面している。生徒たちは自分たちの知識を高め、さらなる教育ステップへ進むことを求めている。図書館は学校教育の補助をするだけでなく、現状の教育で満たされていないノンフォーマル教育やライフスキル教育の補助を促進する。図書館はまた、キャンプの大人が書籍に触れられる唯一の場所である。

#### 5. SVA が取り組む意義

図書館活動に情熱を持ちながら働けるように、難民キャンプの図書館スタッフたちを支援する。図書館事業は SVA の海外事業の中でも核となるアプローチである。最近では、カウンターパート団体の人材育成が一番の問題となっており、事業移譲プロセスの開始が多くの事業現場で予想される。

#### 6. 対象地域、受益者数

##### 【対象地域】

- 1) メラウ難民キャンプ(メーホンソン県ソブモイ郡)
- 2) メラマルアン難民キャンプ(メーホンソン県ソブモイ郡)
- 3) ノボ難民キャンプ(ターク県ウンパン郡)
- 4) ウンピヤム難民キャンプ(ターク県ポップラ郡)
- 5) メラ難民キャンプ(ターク県ターソンヤン郡)
- 6) バンドンヤン難民キャンプ(カンチャナブリ県サンクラブリ郡)

## 7) タムヒン難民キャンプ(ラチャブリ県スワンブン郡)

上記のすべての難民キャンプはタイーミャンマー国境に位置している。(別紙キャンプ地図を参照)

### 【受益者数】

1) メラウ難民キャンプ	16,018
2) メラマルアン難民キャンプ	16,288
3) ヌポ難民キャンプ	13,883
4) ウンピヤム難民キャンプ	14,824
5) メラ難民キャンプ	37,000
6) バンドンヤン難民キャンプ	4,309
7) タムヒン難民キャンプ	8,100
合計	94,134 名(TBBC, 2009 年 4 月)

## 7. 実施期間

第4フェーズとして2010年1月から2012年12月まで (2010年はその1年目にあたる)

## 8. ハンドオーバーする相手と持続可能性

キャンプ委員会: 次期フェーズでは、SVA は、コミュニティで管理運営していけるための、図書館および文化活動の振り返りとハンドオーバーを行なう予定である。KYO は次期フェーズでSVAが協力している組織である。彼らはコミュニティサービスを強化する図書館活動を組織していくと予想される。難民キャンプが自分たちの活動を経済的に持続できるかについては可能性が低い。送還が開始されるまで、SVAは支援を必要としている。しかしながら、キャンプ内で様々な活動を運営するキャンプの可能性は改善してきており、キャンプがコミュニティと共に暮らしていけるような更なる知識や技術を得ることが重要である。多くの支援組織が、キャンプの経営能力に注目し始め、キャンプのコミュニティが自分たち自身の手によって活動を行っていけるように後押ししている。

KRCC(Karen Refugee Camp Education Entity): KED(Karen Education Department)によりキャンプ内での教育業務の責任を取る。KED はIDPs に対し責任を負う予定となっている。KRCEE および KED は協力関係にあり、実のところ、過去にキャンプの教育業務に携わった多くのスタッフが KRCEE に転任している。

KYO(Karen Youth Organization): キャンプ内での青少年活動に特化していて、すでに KWO(Karen Woman's Organization)のようにキャンプ内組織において重要な役割を担っている

## 9. 上位目標

難民キャンプの子どもたちのライフスキル(知識、技術、態度)が改善される

## 10. プロジェクト目標と指標

【目標】 図書館活動がキャンプ内の難民たちによって確立されていく

伝統文化活動を含む図書館活動

【指標】 CBO's にハンドオーバーされた図書館の数

維持管理され、常時活動している図書館の数

## 11. 成果、活動、指標

### 1. 図書館活動(イベント)

#### 【成果】

図書館関連イベントが、難民キャンプ委員会、KYO、図書館員、コーディネーターによって催される

### 【指標】

CBO'によってイベントが運営される

### 【活動】

1. イベントや日常の活動の運営についてのマニュアルの作成・改良、および配布をする。研修後、CBOs が以前のマニュアルを使うことができるか、以前のマニュアルの振り返りを行い、改良する。
2. イベント(こどもの日、母の日、父の日など)の開催方法や日常の活動について、年1回1日、KRCEE および図書館委員会に研修を実施する。  
最近、キャンプではキャンプ委員会によって様々なイベントが行なわれている。一部のイベントでは SVA が図書館で行なっている活動に良く似ているものもある。スキルを得ることによって、ものや資金がなくても自分たちの力でイベントを行なうことができる。
3. KYO に対して、The Pass(絵画展を催す日本のNGO)事業の管理、絵本コンテストやお話キャラバンの運営、日常活動についての研修を年に4回2日間、実施する
4. 日常活動やイベントを運営するために必要な予算や材料や備品を難民キャンプに用意する
5. 視察と評価のための会議を運営する(年2回、半日)

## 2. 伝統文化活動のハンドオーバー

### 【成果】

伝統文化活動が CBOs(難民キャンプ委員会、文化委員会、図書館委員会、KYO、図書館員)によって行なわれる

### 【指標】

CBO'によって伝統文化活動が運営される。

### 【活動】

1. 伝統楽器および衣装を文化委員会へ供給する(KRC を通じて)
2. 文化委員会と KYO 主催の集中文化コース(年3回、1ヶ月)を設置する  
伝統舞踊クラスが図書館活動の一環として運営される。子どもたちはキャンプ内の様々なイベントでパフォーマンスができる。
3. 図書館1棟を伝統文化センターへ転換する(文化委員会事務所も同様)  
ウンピナム難民キャンプにある図書館1棟については、難民キャンプ委員会によって維持される伝統文化センターへ転換するよう要望が出ている。センターは文化委員会事務所と

して使用することが可能である。楽器や他の伝統的なものはこのセンターで修理したり装飾することができる。

4. 難民キャンプごとに文化委員会と KYO に 3 日間の研修を実施する(キャンプにつき 70 名)

### 3. 図書館の維持

#### 【成果】

図書館の建物が CBOs によって維持管理される

#### 【指標】

図書館が CBOs によって維持管理される

#### 【活動】

現存図書館のうち、8 棟がコンクリートなどの恒久資材により改築され、4 棟が修繕される。

### 4. 図書館の認知度

#### 【成果】

図書館委員会が難民キャンプの KRCEE の中で認められる

#### 【指標】

図書館委員会が含まれるか否か

#### 【活動】

1. KRCEE の構成内部に図書館委員会を含むために KRC および KRCEE を正式に申請する。
2. 「コミュニティと図書館サービス」において、KRCEE のための短期間の研修プログラムを開設する
3. 図書館委員会と KRCEE を目的とする視察及び評価のための会議が定期的に運営される  
CBOs に必要な備品を用意する

### 5. マニュアル製作

#### 【成果】

難民キャンプ内でマニュアルと補助教材品が紹介される

#### 【指標】

備品が配布される

CBOs が適切に備品を役立てて使用する

#### 【活動】

1. 書館管理、関係活動およびイベントに関するマニュアルを開発させる
2. KRCEE および KYO に対して、補助教材品の開発及び利用のための研修が行なわれる

## 6. 絵本出版

### 【成果】

カレン語とビルマ語のオリジナル絵本の数が増加する

### 【指標】

絵本の冊数

### 【活動】

1. 難民キャンプ内に出版委員会が設立される  
KRCEE センター事務所と密接にコンタクトをとり、スタッフ数名を委員会のメンバーに選出する。プロの画家や作家は出版委員会のメンバーになるべく、招待する。
2. 委員会で連続的に出版会議が運営される
3. 年に2タイトルのカレン語とビルマ語の絵本を出版委員会と一緒に出版する  
(1000部)
4. 年に複数の民話絵本を出版する
5. 絵本コンテストから年に1タイトル、ソフトカバーの絵本を出版する
6. 年に1タイトルの紙芝居を出版する
7. 印刷されたすべての出版物を各図書館及び関連活動にて、それぞれ一回ずつ配布する

## 12. 実施体制

<SVA>(日本人含む)

所長	1名
プロジェクトマネージャー	1名
図書館事業コーディネーター	4名
経理・総務コーディネーター	1名
図書館アシスタントコーディネーター	7名
出版スタッフ	1名
本購入スタッフ	1名
絵本制作スタッフ	1名

総務・経理スタッフ	2名
ドライバー	6名
事務所清掃等パート	2名
夜警	1名
合計	28名

<難民キャンプ>

コーディネーター 各キャンプ 1-2 名  
 図書館員 各館 2 名、但し状況によりアシスタントを含む 3 名のところあり  
 図書館委員会 各館 1 名がキャンプごとに集う

<協力> キャンプ内で活動する教育 NGOs  
 ZOA、TOPS、WEAVEなど

13. モニタリング・報告の方法

管理運営するパートナー組織が決定したら、全ての活動をこれらの組織とSVAがモニタリングする。月報は毎月SVA内で要約する。正式な報告書は、UNHCR、ODA、日本郵便、タイ政府、SVA の要請に応じて定期的に用意する。評価は中間時点(2011年7月)、仮完了時点(2012年5月)で行なうべきである。願わくは、本部はどちらの評価に対しても、評価報告を送付するサポートを行なうように努める。

14. 特別な配慮事項

難民キャンプでは、明らかに、第三国定住プログラムが難民キャンプサービス運営に多大なる衝撃を与えている。どの NGO も、人の入れ替わりが激しいキャンプにおける人材や支援活動の質の確保について、より良い解決方法を見つけようと取り組んでいる。

ミャンマー(ビルマ)国内をみても、KNU や SPDC の停戦には同意していない。多くの難民たちが安全面が悪化するときは国境を渡ると予想される。SPDC は 2010 年の国政選挙の前に、この国境紛争をクリアにする計画をしていると見られている。

さらに難民問題では、私たちはビルマ移民の教育の機会に注意を払わなければならない。SVA はこの問題において読書推進事業を行なっている SAF をアシストしたいと考えている。

15. プロジェクト・デザイン・マトリックス PDM / 活動地・地図

別紙参照